

## 予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

### 事業名【新】少花粉ヒノキ材質検証事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 整備係 電話番号：058-272-1111 (内4385)

E-mail：c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,968 千円 (前年度予算額：0 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,968	0	0	0	0	0	0	0	1,968
決定額	1,968	0	0	0	0	0	0	0	1,968

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

国のスギ花粉発生源対策推進方針において、ヒノキについても花粉の少ない森林への転換等を進めていくことが重要とされている。本県において、花粉の少ないヒノキへの転換を進めていくにあたっては、ブランド材東濃桧への良質材供給を確保した上で進めていく必要があるが、花粉の少ない桧の材質は十分に検証されていない。

### (2) 事業内容

#### (ア) 事業目的

花粉の少ないヒノキの種子生産に向け、岐阜県由来の少花粉ヒノキ品種（益田5号、小坂1号）について東濃桧としての材質検証を実施する。

#### (イ) 内容

- ・現地調査および試料採取、品種確認のための遺伝子分析
- ・少花粉ヒノキの伐採・搬出・運搬費
- ・製材、乾燥、運搬費、材質評価検証

### (3) 県負担・補助率の考え方

県10/10 県が東濃桧としての材質を検証するもののため

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	129	評価会委員に係る報償費 (教授クラス1名×13千円×3h、専門家5名×6千円×3h)
旅費	61	評価会委員に係る旅費21千円、打ち合わせ等の旅費40千円
需用費	60	消耗品費
委託料	1,718	・ 遺伝子分析 750千円 (75×100試料) ・ 現地調査、試料採取、伐採・搬出・運搬費 918千円 (3m×10本) ・ 製材、乾燥、運搬費 50千円 (10.5角×3m)
その他		
合計	1,968	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画

(1) 災害に強い循環型の森林づくり

(イ) 100年先を見据えた森林づくりの方向性と仕組みづくり

### (2) 国・他県の状況

国の林木育種センターが材質特性（ヤング率）等を評価（15年次の検定林データ）している。（益田5号：評価4、小坂1号：評価4 ※5段階評価で大きいほど高評価）

### (3) 後年度の財政負担

無

### (4) 事業主体及びその妥当性

1) 事業主体：県

2) 妥当性：県が、花粉の少ないヒノキの種子生産に向け、岐阜県由来の少花粉ヒノキ品種について、東濃桧としての材質検証を実施するもののため妥当。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

岐阜県由来の少花粉ヒノキ品種（益田5号、小坂1号）を伐採し、製材製品の状態とし、東濃桧として良質材を供給できる材質であるかを令和6年度末までに検証する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R5)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
①材質検証した少花粉ヒノキの品種数	0			2	2	
②						

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無</li> </ul>
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無</li> </ul>
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無</li> </ul>
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	国が令和5年5月30日に花粉症対策の全体像を示す等、事業の必要性は増加している。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価)	
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	必要最低限の検証規模とし効率性を高めている。

### (今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 本事業の検証結果を踏まえ、今後、花粉の少ないヒノキの採種園整備内容について、国と協議の上、検討していく必要がある。
---

### (次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 令和6年度で完了
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	